

はじめに

現代の日本において、がんは、罹患者数、死亡者数ともに高齢化の進展に伴い増加の一途をたどっており、今や2人に1人が一生のうちに罹患すると言われています。がんに関わる人や苦しむ人、亡くなる人を減らすため、国や地方自治体、医療機関、研究機関等において日々がんに関する研究や対策が行われており、その基礎資料のひとつとして、がん罹患等の情報を継続的に収集し、その傾向を把握するがん登録のデータが活用されています。

岡山県においても、がん予防の推進、がん医療の向上等に役立てることを目的に、平成4年に県民におけるがんの罹患率や生存率の計測、受療状況の把握等を行う地域がん登録を開始し、現在まで継続してきました。しかしながら、地域がん登録については、県境を超えて受療する患者の情報が収集できない、医療機関からの届出が任意であるためすべてのがん罹患情報を網羅的に収集できていないなどの課題が指摘されてきました。

そこで、これらの課題を解消し、より正確ながん罹患状況等を把握した上で、国民や医療機関、行政、研究機関等に還元するため、平成28年1月に「がん登録等の推進に関する法律」が施行され、「全国がん登録」がスタートしました。これにより、がんの罹患情報について、すべての病院に届出が義務付けられるなど、国、地方自治体、関係医療機関等が一丸となってがん情報を収集、分析、活用する体制が構築されました。また、同年12月にはがん対策基本法の一部が改正され、がん登録とがん登録から得られた情報の活用等を推進することが規定されました。本県も、新たなステージに入ったがん登録に懸命に取り組んでいるところです。

今回の報告書は、岡山県地域がん登録事業により得られた平成26(2014)年1月から12月までの罹患状況等について、集計と分析を行ったものです。また、9部位のがんについて、登録罹患者(平成23年1月から12月までにがんと診断された者)の「5年相対生存率」のデータも掲載しています。本報告書が、がん予防、医療活動の評価や疫学研究など、関係各方面の方々によって幅広く活用され、がん対策の推進の一助となれば幸いです。

最後に、本報告書の取りまとめに当たり、多大な御協力をいただきました岡山大学病院をはじめ、各医療機関、医師会ならびに関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、「県民が、がんを知り、がんに向き合い、がんになっても自分らしく生き抜くことのできる岡山県」の実現に向けて、がん登録制度が関係機関との協働の下でより充実したものとなりますよう、引き続き御協力をお願いいたします。

平成30年3月

岡山県保健福祉部長 荒木裕人